

わが数学科 (第 29 回-1)

県立柏高等学校の巻

1 学校紹介

本校は昭和 45 年、普通科 6 クラスで開校した創立 35 年を迎える学校である。開校 2 年目の昭和 46 年には普通科 1 クラス、理数科 1 クラスが増設され、以来今日まで 1 学年普通科 7 クラス、理数科 1 クラス規模の学校である。学校周辺は住宅地でありながら、近くに利根川が流れており水田や畑も多く自然に恵まれた環境である。

本校は学校行事が非常に盛んで、合唱コンクールや文化祭（黎明祭）では、若いエネルギーを存分に発散させている。なかなかの出来栄である。そのような中、近年は体育祭の応援にも力が入り、始業前や昼休みにも応援練習をする光景を目にするようになった。

2 学校の特色

数年前より、大学の先生をお招きしての特別講義を企画したり（SPP 事業）、隣接の野田市にある東京理科大学との連携も始まり、希望生徒が放課後に大学へ赴き、実際に大学の授業に参加するようになった。今年度は十数名の生徒が、東京理科大学へ通っている。

また、昨年度は文部科学省の「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）」の指定を受け、平成 16 年度から平成 18 年度までの 3 年間、理科・数学科を中心に理数系教育に特化した教育の研究を開始した。理科では課題研究が復活し、様々な機会に発表したり、校外での活動（大学の研究室訪問や他の指定校との交流活動）も活発に行なっている。わが数学科では、理数科クラスの数学の授業の中で「ゼミ形式」の授業を取り入れ、生徒自らが講義を行いお互いに質問しあいながら理解を深めている。生徒が主体的に学習活動に取り組むことを目指した試みである。教わることに慣れてしまっている生徒たちを、自分たちで学習して行こうとするスタイルに変えることは非常に難しく、3 名の担当者は日々苦勞している。

3 数学科の教育課程

(普通科)

	1 年	2 年	3 年				
			文系		理系		
			A 選	B 選	必修	A 選	B 選
数学 I	3		2		2	2	
数学 II		3		2			2
数学 III					4		
数学 A	2						
数学 B		2					
数学 C					2	2	

※ A 選択, B 選択は他教科との抱き合わせ選択（理数科も同じ）

※ 3 年理系の必修は 4（数 III）または 2（数 I）+ 2（数 C 統計）のいずれか選択、

A 選択数学 C は行列・2 次曲線

(理数科)

	1 年	2 年	3 年		
理数数学 I	6				
理数数学 II		6	4 または 2 + 2(必修)	A 選:2	B 選:2

※ 1, 2 年次は 6 単位の内 1 単位をゼミ形式の授業に当てる。

※ 3 年次の必修 4 単位は数 III, 2 + 2 は数 I と数 C (統計),

A 選択は数 C (行列, 2 次曲線), B 選択は数 II・B

4 数学科紹介

現在数学科の職員は 10 名であり, うち 2 名は情報の授業を担当している。数学科では, 毎年秋に (2 学期中間試験の期間の休日) 科の旅行会を実施している。これはいつの時代に始まったのかは定かではないが, かなり以前より行なっていたようだ。私の知る限り, 1 度も中止になったことはない。近年わがままな科員のせいで, 海沿いの観光地を訪れることが多く, おいしい海の幸に舌鼓を打つことが恒例となりつつある。

林 保裕 (科長, 生徒部長, バスケットボール部顧問, 実践的確率論を得意とする)

田中 幹男 (3 学年, 和算の研究家。こよなく温泉を愛し, 週末は全国の温泉を渡り歩く)

郡司 周平 (3 学年, 自他共に認める幾何の鬼, 放課後は女生徒の質問に丁寧に応じる)

金城 幸枝 (2 学年, 理論物理に興味をもち, 書棚は物理の本でいっぱい。科内 1 輪の花)

高橋 健治 (3 学年, 18 年ぶりの出戻り。折り紙とカラオケを愛する近寄り易い哲学者)

山本 兼也 (2 学年, 声の大きさは校内一。日々研究室で飯を作るまめな料理家)

斉藤 明宏 (1 学年, バスケットボール部監督, 科内唯一のコンピュータ専門家)

本間 利彦 (情報主任, 現在情報科に無期限レンタル中。ふぐを恋人とする海の男)

日高 敏雄 (3 学年, 数学とサックスを友とする夜行性髭もじゃ怪人。アラームセットの達人)

宇田川信次 (理数科主任, SSH 事務局長, 海と数学から遠ざかってしまったスーパー残業人間)



(後列左から 田中, 斉藤, 山本, 林, 本間,
前列左から 郡司, 高橋, 金城, 宇田川, 日高)